

平成25年度「重点研究費」研究成果報告書

|      |   |
|------|---|
| 研究課題 | 特異的言語発達障害等の早期発見のための日本語の言語発達に関する心理言語学的研究 |
|------|---|

研究代表者

|             |                           |          |
|-------------|---------------------------|----------|
| 氏名<br>伊藤 友彦 | 所属<br>総合教育科学系特別支援科<br>学講座 | 職名<br>教授 |
|-------------|---------------------------|----------|

研究分担者

|                 |                    |           |
|-----------------|--------------------|-----------|
| 氏名<br>松本(島守) 幸代 | 所属<br>日本学術振興会特別研究員 | 職名<br>P D |
| 迫野 詩乃           | 日本学術振興会特別研究員       | P D       |

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

わが国の研究が欧米諸国に比して著しく遅れており、理解と支援のための研究が急務となっている障害として、特異的言語発達障害 (Specific Language Impairment, 以下 SLI)、発達性読み書き障害、吃音がある。これらの障害を早期に発見し、必要な指導・支援を開始するためには、その基礎的研究としてまず、定型発達児の音韻、形態、統語面の発達過程の特徴を明らかにしておく必要がある。本研究の目的は SLI、発達性読み書き障害、吃音の早期発見のために、定型発達児の音韻、形態、統語面の言語発達の指標を作成することであった。本研究の特徴は、我が国では極めて少ない言語学、心理言語学の知見をふまえたアプローチである点にある。

本年度は、今年度のデータを含めて、これまでの研究成果の中から二つを国際学会とワークショップで発表した。

まず、2013年11月にアメリカのシカゴで開催された ASHA (American Speech-Language-Hearing Association) の2013年度大会において、統語発達が著しい2歳時期の音韻発達について報告した (ポスター発表)。対象児は2歳0カ月から2歳11カ月までの定型発達児58名であった。方法としては非語 (3モーラ語と4モーラ語) の復唱課題を用いた。本研究の結果、格助詞未使用群 (格助詞「が」または「の」を使用する幼児21名) と格助詞使用群 (格助詞「が」または「の」を使用する幼児37名) を比較すると、語頭音素の構音の正確さには両群間で差が認められなかったが、正しく産出されるモーラ数は格助詞使用群の方が有意に多いことが明らかになった。この結果から、2歳児においては、韻律的側面は統語発達と対応した発達を示すが、分節的側面はそのような対応した発達を示さないことが示唆された。

次に、2014年3月にイギリスのレディング大学で開催されたワークショップ (LARSP ACROSS LANGUAGES WORKSHOP) において、LARSP (Language assessment, remediation and screening procedure) の日本語版の試案を発表した。LARSPでは、言語発達段階をIからVIIまで7段階に分ける。このワークショップでは、各段階でどのような統語論的、形態論的側面が獲得されるかを中心に、日本語、タミール語、イヌクティット語など10の言語のLARSPについて発表がなされ、質疑、討論が行われた。ここで提案されたLARSP日本語版には、今後、加筆、修正が必要と思われるが、SLI、発達性読み書き障害、吃音の早期発見につながる言語発達の指標として有効な役割を果たすことが期待されている。

## 研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

- 1) Ito, T., Matsumoto, S, Fukuda, S. E. and Fukuda, S. (2013) Phonological development before & after the syntax spurt in Japanese nonstuttering children. 2013 ASHA CONVENTION November 14-16 Chicago, Il. (Poster Sessions)
- 2) Ito, T. and OI, M. (2014) Devising the Japanese version of LARSP. LARSP ACROSS LANGUAGES WORKSHOP 27-28 MARCH 2014. Reading, England.